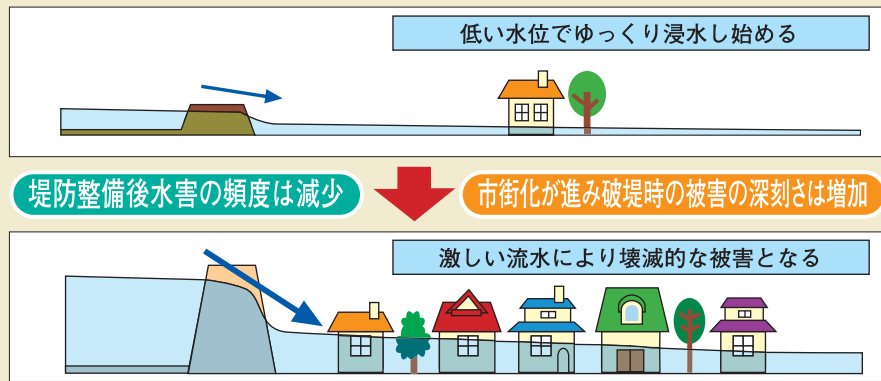


破堤による被害の回避・軽減

現状の課題

市街地では堤防のすぐ近くまで家が建ち並び、資産が集中しているため、破堤による被害の深刻さ(被害ポテンシャル)は、今も増大し続けています。

ひとたび堤防が壊れると、人命や家屋等が失われ、ライフラインが途絶するなど大きなダメージを受けます。



堤防整備後水害の頻度は減少

市街化が進み破堤時の被害の深刻さは増加

破堤による被害の回避・軽減を目標とし、そのための施策を最優先で取り組みます

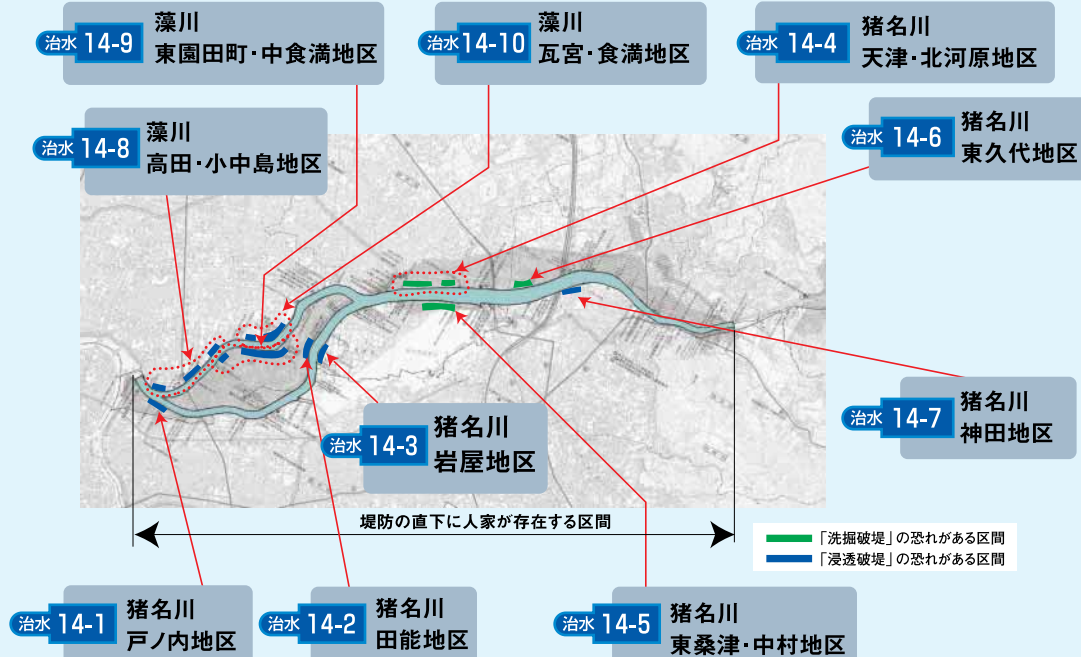
具体的な整備内容

実施項目

堤防補強

- 破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して、緊急に補強を行う必要がある箇所を決定するために緊急堤防補強区間を設定し、詳細調査を実施します。
- 詳細調査の結果、必要箇所については緊急に堤防補強を実施します。

緊急堤防補強区間(約5km)



なお、実施に当たっては、現地に則した具体的な補強手法を「淀川堤防強化検討委員会」(平成15年4月設立)で早急に決定します。

治水14-1 ~ 治水14-10



狭窄部上流の浸水被害の解消を目標

現状の課題

猪名川の上流部は、京阪神地域のベッドタウンとして急速に開発が進行しています。

銀橋狭窄部上流域の多田地区では、昭和28年・35年・42年・58年など、水害が頻発しています。

銀橋を含む狭窄部と上流の市街地



狭窄部上流の浸水常襲地帯(多田盆地・昭和58年9月出水の浸水実績)



狭窄部の開削は下流への流量増により破堤の危険度を増大させます

狭窄部の開削は当面できません

具体的な整備内容

検討項目

既往最大規模の洪水に対する浸水被害の解消を目標として、狭窄部上流における対策を検討します。既設ダムの治水強化、流域内貯留施設の整備を検討するとともに、既設ダムの再編・運用変更により、治水・利水機能の向上について検討します。

ダム22 余野川ダム



P.15へお進みください